

◆ 議長記者会見概要

日時：令和7年6月18日（水）13：30～13：45

場所：県議会棟理事者控室

出席者：中野雅史議長、川口延良副議長、荻田広報委員会座長



川口延良副議長

中野雅史議長

荻田義雄広報委員会座長

<案件>

1年間の振り返り

（中野議長）

議長に就任してから早いもので1年近くがたちました。この間、様々な仕事をさせていただく機会を得ました。

川口副議長とともに県政の課題に向き合ってきました。行政の議決機関である我々県議会とその執行機関の長である山下知事をはじめとする知事部局が、ともに奈良県の発展と県民の皆様によりよい暮らしの実現を目指し、緊張感のある関係を保ちながら、是々非々の立場で取り組んでまいりました。

この1年間の振り返ってみますと、大変話題にもなりましたが、五條の県有地における大規模広域防災拠点のあり方やその整備、またK-POPアーティストによる韓国・忠清南道との音楽交流イベント開催の意義等に対して様々な意見があり、活発な議論がなされたことが議長として強く印象に残っています。

このように様々な議論が活発に交わされことは、まさに二代表制の真価が問われたといえます。県民の皆様にも二代表制の具体例として、理解を深めていただけたと思います。また、奈良県にとって何が本当に必要なのか、真摯に意見を戦い合わせた議会であったと思います。

そして、議長として公平・公正・中立な立場で議会運営を行うことができたこと、副議長とともに自負しております。今後、どなたが議長になられたとしても、公平・公正・中立な運営を行ってほしいと思います。

議長としての任期は終わりますが、引き続き県民の皆様の目線に立ち、残り2年の議員としての任期を務めてまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

報道関係者各位におかれましては、議会の広報にご配慮をいただいたことに、厚くお礼を申し上げ、私からの議長としての振り返りといたします。ありがとうございました。

(川口副議長)

お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。昨年の6月議会で選任いただいて、1年がたちました。県民の皆様の声をしっかりと県政に届けられるよう、また県議会が機能を発揮できるよう、中野議長のサポートに努めてまいりました。

中野議長からもお話がありましたが、この1年間を振り返りますと、様々な県政の課題があったと記憶しています。その都度議会と山下知事との間で様々な議論を交わし、結論に至ることができました。二元代表制の一翼を担う行政の議決機関として、また山下知事と同じく県民から選ばれた代表者として、私自身の考えに立って責務を全うできたと思います。

議員としての任期も折り返し地点を迎えましたが、今後も副議長としての経験を活かして県政発展のために一議員として取り組んでまいりたいと思います。

今任期中、報道関係者の皆様には大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

<質 疑>

Q：山下知事は就任2年目を迎えられましたが、知事と議会の関係に変化は感じられますか。

(中野議長)

お互いに意見のすりあわせを行う過程で、山下知事自身にも未知数の部分があったのではないかと思います。議論をまとめていかなければならない立場として、知事とは是々非々の関係で、わかり合えるところはわかり合えてきたなと思っています。

(川口副議長)

知事は大型プロジェクトの見直しをされてから、議会との向き合い方で変えることのできる部分に対しては、柔軟に対応されてきたと思います。

Q：議長に就任することの意義について伺えますか。また他の議員の方々も議長に就任したいと思われるのでしょうか。議長に就任されると給料も良くなるかと推察しますがいかがでしょうか。

(中野議長)

議長になりたいかどうかは、その人次第であると思います。私を含めて議長になる議員で、給料の額にこだわる方はいないと思います。私自身、議長として議会の意見を集約し、発言できる職責を担えたことは良かったです。

また、議長に就任して以来、たくさんの貴重な経験をさせていただいたので、若い議員の方々にもこれを伝えていきたいと考えています。

Q：議長、副議長にお伺いします。この1年間を振り返って何かやり残したことや、やり切った、と感じることはありますか。

(中野議長)

先ほど申し上げましたように、大規模広域防災拠点やK-POPの文化交流イベントは、これらに要する金額が大きく、県民の皆様にも強く印象に残った課題でしたので、身を粉にして、意見をすり合わせなければならなかったという点で、やり切ったと思っています。

(川口副議長)

行政運営の課題は、その都度生じるものですが、議会として臨機応変に対応することができたと思います。大規模なプロジェクトは1年で終わりというものではありません。10年20年単位で取り組むべき課題もありますので、後任の議長・副議長にも積極的に取り組んでもらいたいと思います。

Q：後任の議長、副議長はまだ決まっておりませんが、贈る言葉はありますか。

(中野議長)

議長に就任される方には、公平・公正・中立な立場で取り組んでいただきたいです。

(川口副議長)

贈る言葉ではありませんが、我々議員は二元代表制の一翼を担うべく県民の方から選ばれた存在で、それぞれが様々な意見を持っています。その調整が難しい場面もありますが、議長・副議長という役職に就くことは、その方にとって将来へのよい経験となると思います。

Q：県政、県議会の課題は何でしょうか。

(中野議長)

知事は政党での肩書きを持たれているため、議論の過程でどうしても政党間の争いになっていく部分はあるかと思えます。これからも様々な課題が出てくるかと思えますが、議長としては公平・公正・中立な立場で議会運営に取り組むことが基本であると思えます。

(川口副議長)

この1年間で我々が山下知事と一緒に政府要望に行く機会がありました。奈良県の喫緊の課題に対しては、こういった機会を捉えながら継続して対応していく必要があると思えます。

(終了)